

# 和地ひとみレポート

**No.4**

## 東日本大震災被災者支援事業

### 武蔵村山市と施設等相互利用の協定を6月3日締結

#### ■ 隣接している市との相互協力の実現の意味

…現在、東大和市には東日本大震災（地震および福島第一原子力発電所の事故による災害を含む）の避難者の方が120名いらっしゃいます。（市役所で把握できている人数です）また、70名の避難者の方が隣接している武蔵村山市にもいらっしゃいます。両市とも避難者の皆様に支援者カードを発行。カードの提示により、市内の様々なサービスを受けられます。

この度、東大和市、武蔵村山市は各市の避難者の皆様へのサービス提供について、相互利用が可能になるよう6月3日に協定を締結しました。

…今までは武蔵村山市とは隣接していながらも、2市間で足並みをそろえて相互協力、事業の実施が実現していなかったとのこと。今回の被災者支援事業を機に、隣接する市と相互協力することで、限られた予算でも市民サービスが向上するような取り組みを促進、実現していただきたいと思います。

#### ■ 東大和市、武蔵村山市の相互サービスの内容

##### ◆東大和市◆

- ・ハミングホール…指定する主催事業の鑑賞
- ・ちよこバス…カードの提示で乗車可
- ・郷土博物館…プラネタリウムの鑑賞、狭山緑地の案内
- ・市民体育館…トレーニング室などの利用
- ・市民プール、図書館の利用

##### ◆武蔵村山市◆

- ・かたくりの湯の利用
- ・MMシャトルの利用
- ・さくらホールの利用
- ・市民体育館の利用
- ・市民プールの利用



#### 高まる環境への意識

### 6月5日環境市民の集いに多くの方が来場

…梅雨の晴れ間の5日（日）に市役所の中庭で開催された環境市民の集い。開会式には尾崎市長をはじめ、多くの市議会議員、また都議会議員、そして加藤衆議院議員も参加しました。開会式での尾崎市長の挨拶では「今まで私たちは水と空気はタダのように思っていたところもあったが、汚れた水をきれいにするためにはお金がかかる。行政も様々な取り組みを行うが、行政だけではと

うてい難しい。市民の皆様の協力がなくては実現しないので、ぜひ協力をお願いしたい」との話がありました。ゴミ問題、電力不足などで高まっている環境への意識。東大和市でも多くの皆様が狭山緑地の保全、市内の川の保全などを行っています。環境の悪化は自身に跳ね返ってきます。次世代に良い環境を残すためにも、日ごろの小さな取り組みがいかに大切かを改めて実感しました。

#### 市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

### 「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員  
**和地 ひとみ**

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。／父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。／卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケット「つるかめランド」等を経営）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。／同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、東大和市議会議員1年生として、日々、奮闘中。

#### ■ 連絡先 和地 ひとみ事務所

✉ wachi\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546  
〒207-0003 東大和市狭山2-864-3-202